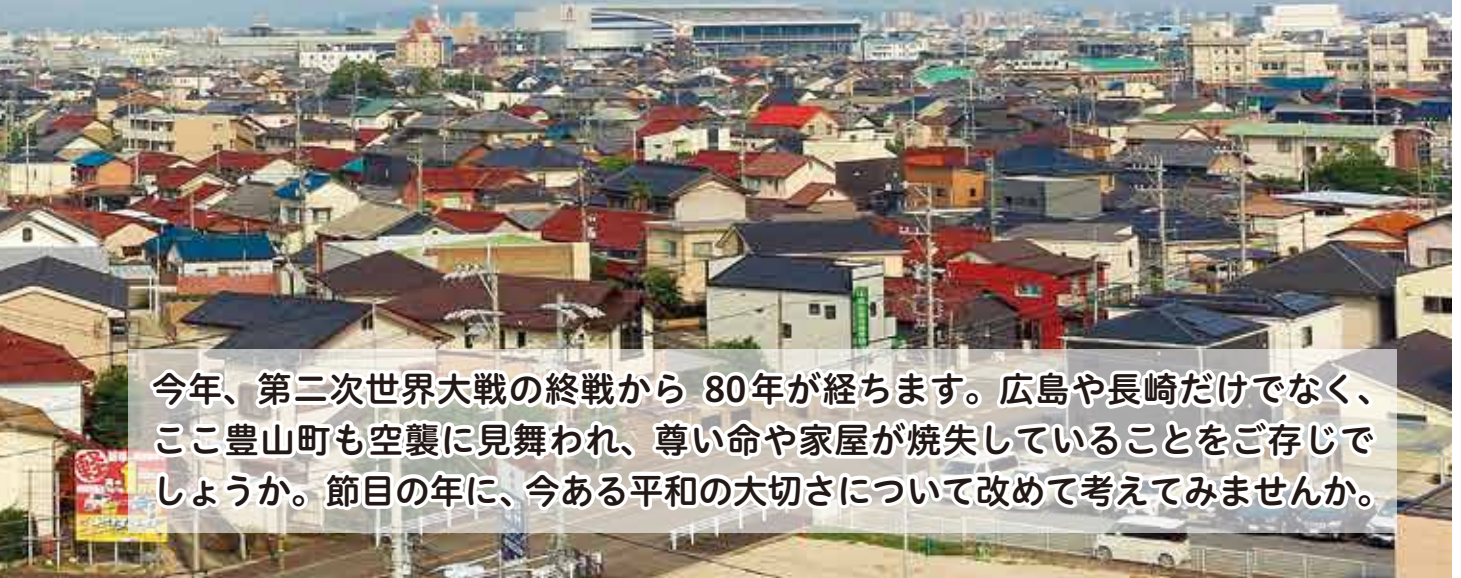


特集 戦後80年 次代へつなぐ平和の輪



今年、第二次世界大戦の終戦から80年が経ちます。広島や長崎だけでなく、ここ豊山町も空襲に見舞われ、尊い命や家屋が焼失していることをご存じでしょうか。節目の年に、今ある平和の大切さについて改めて考えてみませんか。



空襲に備えたバケツリレーの練習風景

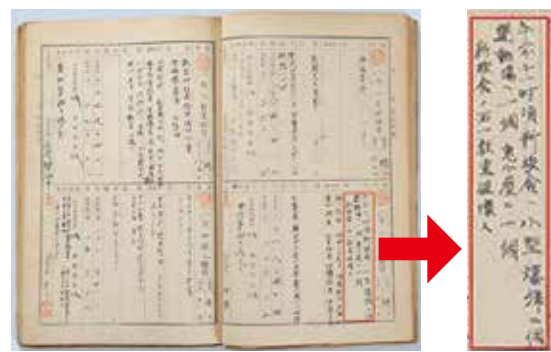


防空壕（昭和17、18年頃）

豊山小学校にも 空襲が

昭

和20（1945）年3月25日に、米軍機（B-29）が豊山村に爆弾を落としました。この攻撃で16人が亡くなり、18軒の家が全焼しました。米軍機の襲来は8月まで続き、8月2日には豊山小学校も攻撃を受けています。当時の日誌には、「午前11時ごろ、新しい校舎に小さな爆弾が2個、運動場に1個、兎小屋に1個落ち、新校舎の西側の教室が壊れた」と記録されています。



空襲があったことが書かれた豊山小学校の日誌

身近にある平和のシンボル

豊

山町商工会館の北側には、戦争で亡くなった方のための石碑があります。その隣には、飛行第五十五戦隊（小牧飛行場にいた特攻部隊）の石碑も建てられています。

また、豊場字伊勢山や慈徳院にも戦争で亡くなった方の名前が刻まれた石碑があります。



飛行第五十五戦隊の石碑